

子どもの誕生日は、母親の出産記念日でもある

今は保育園に勤務する、元学生との最近のメールのやりとりから。

元学生：「私の発案で、子どもの誕生日には、お母さんにも手作りのカードを渡しています。

それは、子どもの誕生日はお母さんの出産記念日でもあるから。出産で一番頑張ったお母さんにプレゼント！と思い、カードを渡しているのです。

そして、今日は7月生まれの誕生会だったので、お母さんたちにもカードをプレゼントしていました。」

私：「あなたも やるじゃん！！

こうしたことは、母親と保育士の距離を縮める素敵な試みですね。」

元学生：「なんだか、阿部さんに褒められるとうれしいですね。

お母さんの存在の大切さを感じている私は、お母さんと子どもの写真を撮って、カードを作って渡しています。

（保育園では）親子写真って、なかなか撮らないものなんですよ。

そして、お母さんの出産記念日をお祝いする。

とっても喜んでくれる方が多く、私もうれしいです。」

私：「良かれと思うことは、行動する。そうすると相手に喜ばれる。喜ばれるとこちらも嬉しくなり、自信にもなる。

子どもも全く同じ。

こうして子どもは、相手との係わり合いの中で人と自分という関係を育み、アイデンティティー（自己確立、自己評価、自己存在意味）を確立して行く。

子どもを誉める（認める）ということは、こうした深い意味を持ちます。

この深い意味を理解せず、上辺だけの言葉で子どもを誉めても、大事な心は子どもに伝わりませんよね。

こうした幼児期での人と自分との基礎的な関係が十分に育まれないことを、「幼児期の空洞化」という言い方で、一部の専門家の中で囁かれているようですよ。

そこが上手く育まれないと、家族とさえ人と自分との関係が築くことが出来ず、最近の少年期の親子間の悲惨な事件に繋がる要因があるような気がしています。

ことばを変えれば、以前にも話しましたが、『人を愛するといことはどういうことかは言葉で教えることが出来ず、人に愛されてこそ学ぶ。』ということと同じ意味かなと思っています。」

人と係わり合うとはどういうことかを、保育の現場で思考・実践する元学生の姿勢に接し、私まで嬉しくなった。

（2006年7月30日 記）